



特定非営利活動法人

MAKE THE HEAVEN

年 次

報 告 書

2 0 1 4





## 代表あいさつ

いつも「MAKE THE HEAVEN」の活動を応援していただきまた、現場で同志として動いて下さり、本当にありがとうございます。

2014年は、中国植林、北海道植林、東北での育苗と寄り添い活動、広島土砂災害緊急支援、そして、カンボジアプロジェクトではカンボジアの天使が舞い降りるジャパンツアーファイナルがありました。くっくま孤児院の子ども達が日本に来るにあたって、多大なるサポートをして下さった皆様に心より感謝します。

ジャパンツアーファイナルの東京会場で、子ども達の踊りの先生が涙ながらに過去の苦しかった時のことを語ってくれた時、涙が崩壊しました。めっちゃ厳しい子ども達の踊りの先生が涙ながらに過去苦しくて苦しくてしょうがない時にMAKE THE HEAVENのスタッフに出逢いこの子達を救ってくれたと語る姿を見て、改めてMAKE THE HEAVENをやったよかったと思いました。ぜひ、機会がありましたらくっくまの子ども達に市に行ってみて下さい。

さて、2014年からフィリピン台風支援のプロジェクトが本格的に始まりました。フィリピン支援では大きな学びがありました。その学びをくれたのは22歳のエマという大学生で、エマはフィリピンのレイテ島タクロバンで台風支援のボランティアチーム「MY RIDE」を立ち上げ、日本のママチャリに乗って、前カゴに救援物資を積んで走り回っていました。彼らの何が凄いか、それはボランティアを被災した人たちの中から募るのです。なので、MY RIDEのメンバーはほとんどが台風災害にあった10代の子ども達で、その中にシャイ

ラという16才の女の子がいました。シャイラは台風ヨランダによって両親と兄弟9人を亡くし自分一人だけ生き残りました。シャイラは家族を亡くしてから三日間、何も食べようとせず、エマが出逢った時にはガリガリだったそうです。そんな悲しみのどん底にいるシャイラに対してエマは「一緒にボランティアをしよう」と声をかけるのです。そして、シャイラは「MY RIDE」に入って共同生活をしながらボランティアを始めました。僕が初めて出逢った時は台風災害の二ヶ月後で、まだ元気もなくいつも誰かの後ろに隠れていました。しかし、その二ヶ月後に行ったとき、僕は度肝を抜かれました。シャイラがボランティアのリーダーになっていて、凄く生き生きとしていたのです。エマは教えてくれました。「自分の心の傷は他人には癒すことは出来なくて、自分が誰かの力になろうとした時の愛によって自分で癒してゆくんだ」って。誰かの力になること。それは結果、自分の為になる。まさにフィリピンにきっかけ番長がいました。これからのフィリピンにぜひ注目しておいて下さい。

また、2014年からは少人数のアホ学を終了して、新たに「鼻唄を歌いながら夢の花を咲かせる」HANA HANA LANDを始めました。2015年も全国各地で開催していきますのでぜひ遊びに来て下さい。

理事長 てんつくマンこと軌保博光

# 世界のみんなと繋がろう



## 目次

活動理念・目標・活動概要	04
MAKE THE HEAVENの足跡	05
組織図・理事紹介	06
カンボジア自立支援プロジェクト 「MAKE THE HEAVEN CAMBODIA」	07
植林・間伐プロジェクト 「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」	15
災害復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」	19
フィリピン復興支援プロジェクト 「フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト」	23
映像部	30
ツアー・イベント	31
会員・募金・スポンサー一覧	32, 33
会計報告	34, 35



# MAKE THE HEAVEN とは

## 理念

「思うだけでなく、考えるだけでなく、語るだけでなく、祈るだけでなく、動けば変わる」を合言葉に、笑い楽しみながら活動します。

## 目標

MAKE THE HEAVENの目標は、世界中の子供達の笑顔を増やす事、森を増やして当たり前になる地球を残す事、そして、一人でも多くの人の心の中に元気や希望が増えるきっかけを創る事です。

「一人の力は小さいかもしれない。しかし決して無力ではない」という思いから、みんなの「はじめの一歩」をサポートし、行動する人を増やす事によって、誰かが誰かの為に動き出すのが当たり前になる世の中を創り、地球に「緑」と「笑顔」と「希望」を増やしていきます。

いろんな活動を、正義感でやるのではなく、笑い楽しみながら行動する事で「いつのまにか誰かの為になっていた」そんな新しい常識を創りながら、一人でも多くの人の心の中に希望の明かりを灯していきます。

## 活動概要

MAKE THE HEAVENは、未来への希望を増やすために2014年も「笑い楽しみながら」をモットーに活動しました。

### \*カンボジア支援プロジェクト「MAKE THE HEAVEN CAMBODIA」

カンボジアへの支援と、カンボジア孤児院の子ども達を日本に招待したツアーを通して、カンボジアと日本の心を繋ぎ、笑顔が増えるための支援を行いました。

### \*植林・間伐プロジェクト「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」

「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超え、皆で力を合わせて植林を実践しました。また、東北に緑の防潮堤を作るための育苗を行いました。

### \*災害復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」

宮城県石巻市近郊で、人と人との繋がりを大切にしたいという思いを込めた活動を行いました。また、広島県の方々と共に広島市土砂災害の支援活動を行いました。

### \*フィリピン支援プロジェクト「フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト」

フィリピン台風災害の復興支援のため、フィリピンと日本を繋ぎフィリピンに笑顔と希望を届けるための活動支援を行いました。

## MAKE THE HEAVENの足跡

2004  
4月

### NGO MAKE THE HEAVEN 設立

\*環境問題や海外支援に取り組んだ事をきっかけとして、世界の子供達の笑顔を増やしたいという熱い思いを持った仲間が集り、NGO MAKE THE HEAVENが誕生しました。

8月

### カンボジア支援プロジェクト発足。

翌年、プノンペンにカンボジア支援プロジェクト事務局を設置

\*2014年までに、井戸掘り支援は880基の井戸を届ける事が出来ました。また、カンボジアの子供達へ奨学金を贈る教育里親支援は延べ4,442人の子供達が学校に通えるようになりました。

2005  
4月

### 植林プロジェクト発足。第1回中国内モンゴル植林ツアー開催

\*2014年までに、中国内モンゴル、ブラジル、南アフリカの3ヶ国と、北海道、和歌山、熊本で計19回の植林ツアーを行い、延べ2,217人に参加頂き、植林木数は約50万本となりました。



2006  
1月

### 小豆島にてげんきのたねまきプロジェクト「げんきのたね夢楽」発足

\*げんきのたね夢楽は、2011年5月末を持って6年間の活動を終了しました。2011年までに延べ1万人以上の方が参加してくれました。

### 植林プロジェクトを「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL」と名付け、一元募金プロジェクトを開始

\*2014年までに、873名(チーム)の一元ヒーローが誕生しました。

2009  
11月

### 当法人理事長が監督を務めるドキュメンタリー映画「107+1 ~天国はつくるもの~ Part2」が完成及び公開

\*2014年までに、同映画Part1と合わせて自主上映による観客動員数が約22万人になりました。そして、2015年からはPART1、PART2ともに自主上映を終了し、DVD化して販売しました。  
※映画配給、DVD販売元は有限会社クラブ・サンチュアリ

2010  
4月

### 間伐プロジェクト開始

\*2014年までに静岡、山梨、熊本、奈良、宮城、和歌山で計8回間伐ツアーを行い、延べ357人に参加頂き、758本のスギ、ヒノキを間伐しました。

5月

### ロックバンドおかんと専属事務所契約

\*2013年4月 大阪城ホールでロックバンドおかん単独公演を実施し、約6千人が来場。大阪城ホールの単独公演成功を持って、MAKE THE HEAVEN から独立しました。

8月

### NGOから香川県の特定非営利活動法人(NPO法人)に認証。

\*現在は、神戸市の特定非営利活動法人(NPO法人)に認証済。

2011  
1月

### カンボジアくっくま孤児院運営開始

3月

### 東日本大震災復興支援プロジェクト「め組 JAPAN」発足

\*2014年までに延べ2万人以上のお手伝いクルー(ボランティア)が参加してくれました。

6月

### 送電線国有化のための署名募集開始

\*2012年10月までに179,820名分の署名を頂き、経済産業省に届けました。

8月

### 疎開プロジェクト洞爺バケーション開催

\*2013年までに計3回(毎年の夏休み)開催し、延べ337人の親子が参加してくれました。

2012  
1月

### 緑の防潮堤プロジェクト「希望の森もり大作戦~東北植林編~」発足

(WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL とめ組 JAPAN の共同企画)  
\*植林実現に向けて、ビニールハウスで約21,000本の苗木を育成しています。

2013  
4月

### カンボジア学校建設プロジェクト発足

\*2014年までに、8つの建物(小学校を6校と図書館、孤児院を一棟ずつ)を建設しました。

2014  
1月

### フィリピン支援プロジェクト「フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト」発足

\*おみやみしんの支援、ボランティアチーム「MY RIDE」の活動支援をしました。

8月

### カンボジアの子ども達が日本に来る「天使が舞い降りる JAPAN TOUR FINAL」を開催

\*2014年までに計5回ツアーを行い、2014年はFINALイベントを行いました。

8月

### 広島土砂災害復興支援「め組 JAPAN 広島」発足

\*2014年8月末から9月末まで活動し、2,500人以上のお手伝いクルー(ボランティア)が参加してくれました。

11月

### フィリピンのパロ市で開催された

フィリピン台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかりの装飾を実施  
\*慰霊祭の会場に1,000本以上の竹あかりを飾りました。



# MAKE THE HEAVEN 事業内容



## MAKE THE HEAVEN 役員名簿

理事長	軌保 博光	有限会社クラブ・サンクチュアリ代表取締役
理事	中村 文昭	有限会社クロフネカンパニー代表取締役
理事	大嶋 啓介	有限会社てっぺん代表取締役
理事	奥芝 洋介	株式会社 NEXT LEVEL 代表取締役
理事	松岡 宏樹	株式会社俺ん家のめし代表取締役
理事	川島 肇子	特定非営利活動法人 MAKE THE HEAVEN 副理事長
理事	梶島 実	有限会社クラブ・サンクチュアリ取締役営業本部長
監事	二瓶 明	サンクチュアリグループ監査役・統括経理



# カンボジア支援プロジェクト MAKE THE HEAVEN CAMBODIA

## プノンペン市内・プノンペン近郊での支援活動

- くっくま孤児院運営
- パパママ大作戦！奨学金制度
- バサックスラム支援
- NCCLA 孤児院支援
- ごみ山の小学校へのお米支援・日本からの物資支援

## プノンペン近郊 & プレイヴェン州プレイ克蘭村での支援活動

- 学校建設事業
- まいど大作戦！井戸掘り支援
- プレイ克蘭村支援
- スタディツアー & 現地コーディネート & 日本語教師インターン

## カンボジアの天使が舞い降りる JAPAN TOUR Final



## 活動概況

今カンボジアでは、首都プノンペン等を中心に目覚ましい経済成長をしている一方で、学校や井戸の不足、貧富の差の拡大等により、雇用を得るために必要な「教育」が受けられない子ども達がたくさんいます。

当プロジェクトは、お預かりしている支援金がどんな笑顔に変わっているのか「見える支援」を大切にしながら、教育支援やスラムや孤児院の自立支援等を通して、子ども達の人生の選択肢が増え、日本にもカンボジアにもたくさんの笑顔が増えるきっかけを創り、お互いに成長していける活動をしています。

2014年にもたくさんのご支援を頂き、各プロジェクトを遂行出来ました。また、たくさんの日本人がカンボジアを訪れ、さらに8月には「カンボジアの天使が舞い降りる JAPAN TOUR Final (ジャパンツアー)」を開催して、くっくま孤児院の子ども達が日本に来ることが出来て、子ども達のキラキラな笑顔に出逢って一緒に楽しく交流する事で、日本にもカンボジアにもたくさんの笑顔を増やす事が出来ました。

## 足跡

※印は 2014年までの総計

2004年	バサックスラム支援開始
2004年	第1回スタディツアー開催 計23回のツアーを行い、延べ507人に参加頂きました。※
2004年	井戸支援開始 880基の井戸を掘りました。※
2005年	奨学金制度/パパママ支援開始 4,442名の子供を支援しました。※
2005年	第1回ジャパンツアー開催 計5回のツアーを行いました。※
11月	カンボジアにプノンペン事務所設立
2006年	3月 プレイ克蘭村に学校を建築し、開校式を実施
6月	バサックスラム移転時の緊急支援実施
2007年	10月 第1回パパママツアー開催 2回行い、延べ32人に参加して頂きました。※
2009年	バサックスラム幼稚園建築
2010年	公立小学校1校建築・プレイ克蘭村の学校改築
2011年	くっくま孤児院運営開始・孤児院引越し
2011年	公立小学校1校建築
2011年	第1回くっくまツアー開催 計5回のツアーを行い、延べ118人に参加頂きました。※
2012年	第1回親子ツアー開催 計2回のツアーを行い、延べ24人に参加頂きました。※
2012~2013年	公立小学校2校ずつ(計4校)を建設し、開校式を実施
2014年	公立小学校に図書館設立
8月	「天使が舞い降りる JAPAN TOUR FINAL」実施。 孤児22人を日本に招致。

## プノンペン市内・プノンペン近郊での支援

プノンペン市内の急速な経済発展により、貧富の差が激しくなり、生活が厳しい子や学校に通う事が困難な子ども達がまだまだ沢山います。孤児院の運営、奨学金制度、スラムと他孤児院の支援、ごみ山の小学校へのお米支援等、プノンペンでは主に子供に笑顔が増えるサポートをしています。



### くっくま孤児院運営

2008年から、カンボジアの孤児院で育った踊りの先生たちが、かつての自分たちと同じ境遇の孤児の子ども達を集めて孤児院を始めましたが、当時24人いた子ども達の食費を捻出する事も困難になり、孤児院解散の窮地に追い込まれていました。そこで、踊りの先生たちの頑張りを応援したい、素直で元気いっぱいな子ども達を応援したいと思い、2011年から、MAKE THE HEAVEN CAMBODIAの孤児院として、先生たちと共同運営を開始しました。いろいろな環境で育ってきた子ども達は、くっくま孤児院で、毎日ご飯が食べられ、毎日水浴びが出来て、毎日学校に通えて、毎日寝る場所がある。そんな当たり前の事に心から幸せを感じ、日々笑顔で楽しく生活しています。その笑顔は、施設を訪れたみんなを幸せにしてくれています。

現在は26人の子ども達と、踊りの先生2人とスタッフ3人が、一緒に生活しています。元気な素直で優しい子ども達と、その子ども達を愛して一生懸命運営しているカンボジアの大人達やメイクのスタッフ、ここには素敵な笑顔が溢れています。

2011年からは、くっくまファミリーの各サポートコースをスタートして、毎月の食費や生活全般・教育の支援を行っている他、カンボジア国内で伝統舞踊を披露したり、手作りのアクセサリーを日本で販売し、自分たちの力でも孤児院を運営出来るようにサポートしています。また、2011年11月には、多くのご支援を頂いて新しい土地と建物に移転し、自給自足を目指して庭で子ども達が野菜やニワトリを育てています。2012年はソーラーパネルの設置を行いました。今後も子ども達を応援する家族を増やしていきます。2014年はジャパンツアーを行い、日本各地で伝統舞踊を披露し、大成功を収めることが出来ました。

※くっくま孤児院の正式名称：CCMHA (Cambodia's Children Make the heaven Association) 孤児院



### くっくま孤児院運営費 内容

運営費：毎月約2,500\$

内訳：土地レンタル代 500\$・お米 450キロ・おかず&調味料 800\$・学校費用（試験代・英語学校など）300\$・スタッフ給料（踊りの先生・調理スタッフ）・病院代・洋服や制服等の衣類・伝統舞踊の楽器や衣装・歯ブラシやせっけん等の生活用品・文房具等

※水道・電気代は、子ども達がカンボジアの伝統舞踊を踊って頂いた募金で支払っています。



### パパママ大作戦！奨学金制度

2005年の13人からスタートしたパパママ大作戦は、2014年で10年目を迎え、パパママの皆様のおかげで、プノンペン市内&近郊の貧困家庭の子ども達の学校に通いたいという夢が叶えられ、安心して勉強を続ける事が出来ています。奨学生の写真付報告書や、本人からの手紙のお届け等、日本のパパママとカンボジアの我が子が繋がり、家族のような温かい心の交流が出来るようにお手伝いをさせて頂いています。また、新学年がスタートする10月(2014年のみ11月)にはパパママが出席出来る認証式を行っている他、パパママがカンボジアを訪ねてきてくれた際には、いつでも我が子に会う事が出来るようにコーディネートを行っています。2014年度は、継続も合わせて520人の子ども達がこのプロジェクトで学校に通う事が出来ました。



### バサックスラム支援

カンボジアを支援をするきっかけとなったのが、バサックスラムとの出会いでした。バサックスラムには2005年から支援を行っており、寺子屋の食費(米米マン・おかずマン)や、幼稚園の校舎設立、伝統舞踊の衣装や化粧品の支援等を行った他、緊急時の医療費等のサポートも必要時に行いました。子ども達は、スラム内のごみ拾いをしたり、伝統舞踊の練習をしたり、日々自分たちに出来ることを精いっぱい頑張っています。

■米米マン・おかずマン 共に、一口20,000円ずつの支援をしています。



### NCCLA 孤児院支援

プノンペン市内にあるNCCLA孤児院を運営している夫妻との出逢いを、私たちカンボジアスタッフは奇跡と呼んでいます。素晴らしい2人から色々な事を学びながら、子ども達への支援と交流を続けています。定期的に物資を送ったり、スタディツアーの際に夫妻が運営するレストランやクッキー屋さんを訪れたりする事で、自立支援を支えています。2014年、NCCLA孤児院の子ども達は、大学応援基金によって計6人が大学に進学しています。また、多くの子ども達が大きくなってきてアルバイトなどをするようになってきました。そこで、2014年12月にNCCLA孤児院は解散という形を取り、夫妻はレストラン運営をしながら、残った小さな子ども達の世話を引き続きしていきます。12月にはメイクザヘブンより2人への最大の尊敬の意を込めて、解散式を行いました。夫妻も子ども達も感謝の号泣で、会場は優しい涙に包まれました。今後も大学応援基金と共に、一緒に成長していきたいと思っています。



### ごみ山の小学校へのお米支援・日本からの物資支援

スタメンチャイ地区にある、今はもう使われなくなったごみ山の中に小学校があります。2014年も、そこへ通う子ども達に、毎月1,500キロ分のお米の支援をし、子ども1人につき5キロずつ手渡しています。今後も、家族みんなが幸せになる支援を継続していきます。また、スタディツアーの際に日本から支援物資をお預かりし、古着や文房具等を各支援先の子へ渡しています。



## プノンペン近郊 & プレイヴェン州プレイクラン村での支援活動

村支援で最重要課題が、「自立支援」に向けての取り組みです。

はじめの一步をお手伝いする気持ちで、学校建設や井戸掘りやフェアトレード商品の作成等を、村の方たちと協力し合い、共に勉強を重ねながら支援しています。



### 学校建設事業

カンボジアでは、国の経済の発展と共に、教育にも力を入れ始めています。その為プノンペン市内を中心に、私立学校や塾がどんどん出来ており、ある程度家族の収入が安定している子ども達はしっかり勉強できる環境が整ってきています。

しかし、地方では、学校に通いたくても通えない子ども達がまだまだ沢山います。学校や教室が足りず、青空教室のような環境で勉強している子ども達もいます。学校で勉強が出来ること、学校で友達と一緒にのびのびと遊べることが、どれだけ幸せで楽しいことなのかを、カンボジアの子ども達は伝えてくれます。

私たちは、文部省から依頼のあった場所を実際に視察して、学校の先生たちとミーティングをして学校建設の場所を決定していきます。

2014 年は、小学校の敷地内に図書館を建設。さらに、ジャパンツアーでの収益により、小学校が 1 校建設出来ました！（2015 年 4 月落成式実施）。



### まいど大作戦！井戸掘り支援

2004 年のカンボジア事務所設立当初から 2012 年までの 8 年間、皆様の想いが詰まった井戸をプレイヴェン州やシェムリアップ州の農村地域を中心に合計 880 基を届けてまいりました。

現在は、新たな井戸掘り募集を停止し、今までに掘った井戸の定期的な水質検査を中心としたメンテナンスを行っています。

今後も基準値をクリアした安全な水を提供し、村の家族がこれからも安心して井戸を使用することが出来るよう支援を続けていきます。



### プレイクラン村支援

プレイクラン村を始めて訪れた際に、子ども達が民家の軒下でぎゅうぎゅうになって勉強している様子と出会った事をきっかけにして、2006 年にプレイクラン村に村人の手作りで 3 教室の校舎を建設しました。

基本的に幼稚園～小学校 3 年生レベルまでの子が通い、4 年生からは公立の小学校に通っています。

2010 年には、支援によって校舎の建替えを行い、レンガやコンクリートで建てられた校舎が完成しました。2011 年からは、毎月 7 回、学校の子供達におかゆ給食を提供してきました。（2013 年 10 月迄）

そして、学校に遊具をプレゼントしたり、古い教室の建て替えをしたり、定期的に文房具等の支援も行っています。2014 年は、学校運営が出来るように養鶏プロジェクトを発足したり、公立小学校の先生を村に招待し、先生たちの教授法スキルアップなどに取り組みました。



## スタディツアー & 現地コーディネーター & 日本語教師インターン

これまで、2004 年から延べ 23 回のスタディツアーを行いました。

「まずは行ってみよう。」「まずはやってみよう。」「きっとその先に何かがあるはず。」を合言葉に、2014 年も開催し沢山の方がカンボジアに来て、各施設の子ども達との交流や、村でのホームステイ、井戸掘り体験等を行いました。カンボジアの子ども達と一緒に過ごす事で、今を一生懸命生きる子ども達の笑顔に癒され、刺激をもらい、最終日には何人もの参加者さんが涙を流して帰っていきます。

スタディツアー以外にも、くっくまツアーや親子ツアー、友人を連れ立ってのミニツアーや、個人旅行の延長でのカンボジア訪問等のコーディネーターも随時行い、学生さんの卒業旅行や、会社での社員旅行にも利用して頂きました。

また、日本語教師のボランティアが子ども達へ日本語教室を開催したり、美容師さんが青空カットをしてくれたり、バルーンアートや似顔絵を書いてくれたりする等、訪問者の特技を活かし、カンボジアの子ども達も喜ぶ交流を行いました。



### スタディツアー参加者の声

今回のツアーを通して、人との繋がりの大切さを改めて実感することが出来ました。沢山の方のお話を聞く中で、自分にもまだ出来ると思えることが出来、自信にもなりました。今回のスタディツアーは確実に私の背中を押してくれました。本当にカンボジアが大好きになりました！もっとカンボジアのことが知りたいです。必ずまたこの国に来たいと思います。皆さんにお会いできて本当に良かったし、子ども達にも会えてよかったです！

30 代女性

何か変わるかな？と思って参加したこのツアー、ツアーで出会ったみんなやカンボジアのみんなに出会って、自分の考えが 180 度変わりました。常に感謝の気持ちを持つこと、常に全力で努力して楽しもうと思いました。カンボジアの子ども達は、素直で人懐っこくて、キラキラの笑顔が浮かべる子ども達が本当にかわいくて、何か自分に出来ることはないかなって、力になりたいなって、すごく思いました。それと同時に、恵まれた環境に甘えてすぐ投げ出してしまおう自分が情けなく思えました。自分より小さい子ども達がどんな環境におかれていても、精一杯頑張っているということを目の当たりにして、もっと何事においても努力すべきだと思いました。

カンボジアから得ることも沢山あったけど、ツアーのスタッフ、参加者から得るものもとても大きく、これから自分が夢に向かって頑張るときに糧になると思いました。本当にこのツアーに参加できて良かったです。いつかメイクザヘブンのお手伝いが出来たらいいなと思いました。またツアーに参加したいと思うし、個人でもカンボジアに行きたいです。

10 代女性

本当に来て良かった。カンボジアの色々ゆるい所もすごく好きになったし、違う世界を見ることって本当に大切なことだって思った。こういう考え方やこういう習慣もあるんだなって、沢山学ぶことが出来て、自分が少し成長したように思う。色んな方とお話しする機会もあり、沢山の出会いもありました。いい刺激をもらい、自分の将来についても考えることが出来ました。素敵なツアーをありがとうございました。

20 代男性

カンボジアはとても良い国だと思いました。みんなニコッと笑ってくれて、笑顔が溢れてると思いました。なのでまた行きたいです。カンボジアに来れたということは、父母が支えてくれたからだと思います。そのことに感謝しないとイケないと思います。またカンボジアに来たいと思います。カンボジア最高！！

中学生 女の子

# カンボジアの天使が舞い降りる JAPAN TOUR Final



## 『日本に行きたい』から始まった JAPAN TOUR

2014年8月、「日本に行きたい!」というくっくま孤児院の子ども達の夢が叶い、「カンボジアの天使が舞い降りる JAPAN TOUR Final」が開催できました。日本で過ごした18日間で、子ども達は一生忘れることの出来ない最高の宝物を手に入れました。

2005年から始まり、今回で5回目にしてファイナルを迎えた JAPAN TOUR。600万円以上の募金を集めさせて頂き、今回はメイクザヘブンカンボジアが運営するくっくま孤児院の22人の子ども達を日本に呼び、カンボジアの伝統舞踊を披露するイベントを行いました。

5会場で6公演を行い、合計約3000人の方が来場して下さい、全会場とも満席状態でした。会場では、くっくまの子ども達と沢山の日本人が出会い、子ども達の最高の踊りを皆様にお見せすることができました。各会場のゲスト出演者の皆様も最高のパフォーマンスを披露して下さい、どの会場もイベント終了時には笑顔と涙と感動で溢れ大成功にて全日程を終了することが出来ました。また、公演以外でも日本人と一緒に日本各地の施設を訪問して交流をさせて頂き、お互いにたくさんのお話を伝え、一緒に笑い合いました。



## 小学校が1校建設出来ました!

今回の JAPAN TOUR の収益にて、カンボジアに学校が1校建設できることになりました。くっくまの子どもたちが頑張って踊って、日本の皆さまと協力しあって建てられた学校。

2015年4月に行われた落成式では、カンボジアの他の子供たちのために、くっくまの子ども達が村の子供たちの前で踊って唄いました。くっくまの子ども達の姿に刺激を受け、次は村の子供たちが希望をもって頑張って勉強する、そんなステキな相乗効果が得られることを願い、カンボジア国内でも笑顔を繋げていきたいと思っています。

皆様のご協力のおかげでジャパンツアーを大成功させることができ、日本中にたくさんの笑顔が増えました。JAPAN TOUR でうまれた笑顔やあったかい気持ちがあつたお返しに、今日もどどこかで誰かの笑顔になっていることを願っています。ご協力、心よりありがとうございました。



## 【カンボジアの天使が舞い降りる JAPAN TOUR Final】

開催日程：2014 8/16～8/2  
イベント開催地：福岡・広島・大阪・名古屋・東京（5都市、8公演）※東京は2公演

- 8/16 子ども達が福岡空港に到着、地元の方々との交流会
- 8/17 福岡イベント（アクロス福岡）約400人動員
- 8/18 国立病院機構大牟田病院慰問
- 8/19 広島へ移動、おたふくソース本社訪問、原爆資料館見学、地元の方々との交流
- 8/20 広島イベント（マリナーホップ）約400名動員
- 8/21 果物狩り・餅つき・魚釣り等体験
- 8/22 大阪へ移動、森源太ライブ（AKASO）にゲスト出演
- 8/23 体育館でミニイベント（運動会）を開催、地元の方々との交流会
- 8/24 大阪イベント（東成区民センター）約700人動員
- 8/25 箕面自由学園幼稚園にて園児達と交流会  
池田市交流会、学童の子ども達と交流会
- 8/26 岐阜へ移動、児童養護施設訪問
- 8/27 歯科検診、岐阜城へ遠足、岐阜の方々との交流会
- 8/28 名古屋イベント（青少年文化センター）約500人動員
- 8/29 東京へ移動、八景島シーパラダイスへ遠足、株式会社 ESSPRIDE 訪問
- 8/30 1日オフ
- 8/31 東京イベント（日暮里サニーホール）一部・二部合計900人動員
- 9/1 キッズニア東京にて職業体験、地元の方々との交流会
- 9/2 成田空港から帰国

## くっくま孤児院の子ども達の感想

### ●ロワッタナー（15歳）

私は、日本に着いた時、もうカンボジアに帰りたくないと思いました。カンボジアに帰りたくない理由は、日本人の明るさと親切さ、そして発展の素晴らしさを見たからです。私は、空港に着いた時、たくさんの日本の皆さんが笑顔で明るく迎えに来てくれて、胸の中はぬくもりがいっぱいです。

私は舞台上で踊るとき、沢山の人が応援に来てくれて、私はすごくうれしかったです。

そして、沢山の力をもらって、本気で頑張って踊ることが出来ました。日本へ行くことが出来て、とても幸せいっぱいです。カンボジアに帰って、とてもさびしいです。なぜなら、日本のみなさんと離れたくないです。飛行機に乗ったところで、心から泣きたくなりました。でも、周りに沢山の人がいて、恥ずかしいから泣きませんでした。

最後に、日本のみなさんに伝えたい事があります。私は日本の皆さんが大好きです。

### ●ダヴィ（12歳）

僕は、皆さんのおかげで、日本に行くことが出来ました。日本行きの発表を聞いたときに、とても感動しました。日本に着いた瞬間に、ここは天国だと思いました。日本の景色がとても綺麗で、どこに行ってもゴミがありません。とても気持ち良く幸せでした。今まで見たことがない場所です。初めて、トンネルを見ました。今まで見たことがないものです。色々、日本のことを見せてくれて本当にありがとうございます。日本の皆さんに、カンボジアの伝統舞踊を踊って見せることが出来て、とてもうれしいです。私たちが踊るために、素敵なイベントとステージを準備してくれて、本当にありがとうございます。また、楽しいところに遠足に連れて行ってきて、ありがとうございました。一番面白かったところは水族館です。

日本に行くことが出来たのは、メイクザヘブンのスタッフの皆さんと日本のみなさんのおかげです。私たちがご飯を食べられなかった時から、ずっと応援してくれました。その時は、住んでいたところがとても大変でした。家の屋根の穴がいっぱい開いて、雨が降るときに寝れません。寝ることも勉強することも大変でした。皆さんのおかげで、こうやって私たちが楽なところに住むことが出来たり、美味しいご飯を食べれたりちゃんと勉強が出来ています。

みなさんの恩を忘れることが出来ません。一生忘れません。本当に本当にありがとうございました。私たちを助けてくれて、心から感謝します。最後に日本人のみなさんと、メイクザヘブンの皆さんの幸運と幸せを祈っています。どこに行ってもいい人に出会えますように祈っています。そして、夢が叶いますように祈っています。



# 植林・間伐プロジェクト

## WANDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL

- 一円募金  
～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～
- 中国内モンゴル植林
- 北海道植林
- 東北植林プロジェクト（め組 JAPAN との共同企画）
- 「希望の森モリ大作戦～東北植林編～」
- 間伐プロジェクト



### 活動概況

今世界中で気候の変化により雨が減っています。人間がこのままの生活を続けた場合、更に雨が減って、食糧生産量は減り、食糧危機が起こり、結果、水の奪い合いの戦争が起こると予想されています。これからは、人々が競いあったり奪いあったりするのではなく、心をつなげて力を合わせる時だと思います。

当プロジェクトは、「緑」と「希望」いっぱいの地球を未来の子供達に届けるために、国境も年齢も性別も超えてみんなで力を合わせ、地球に一本でも多くの木を増やす活動、一本でも多くの自然林を守る活動、そして、一人でも多くの環境意識を高めて動き出す人を増やす活動をしています。

2014 年は、め組 JAPAN との共同企画『希望の森モリ大作戦～東北植林編～』で「森の防潮堤」を作る植林のために広葉樹の育苗を行いました。

また、4月と9月に内モンゴル植林ツアーを、7月は北海道の洞爺湖畔で植樹祭を行いました。各ツアーを通してたくさんの人に参加頂き、たくさんの人と力を合わせて笑い楽しみながら「緑」と「希望」を増やす事が出来ました。

### 足跡

- 2005年
  - 4月 第1回中国内モンゴル植林ツアー  
\*2014年までにツアーを計12回開催しました（2014年は4月と9月に開催）。
- 2008年
  - 11月 植林事務局をWANDERFUL 植林FESTIVALと命名し、新たに事務局を設置。同時に一円募金プロジェクト開始  
\*2014年までに一円ヒーローが873名となりました。
- 2009年
  - 6月 第1回ブラジル植林ツアー開催
  - 8月 第1回南アフリカ植林ツアー開催  
\*2010年11月に第2回南アフリカ植林ツアーを開催しました。
- 2010年
  - 3月 国内植林ツアー開催  
\*2014年までに北海道、和歌山、熊本の3箇所で開催しました（2014年は北海道で開催）。
  - 4月 国内間伐ツアー開催  
\*2014年までに、宮城、静岡、奈良、和歌山、熊本の5県で計8回の間伐ツアーを開催しました。
- 2012年
  - 1月 東北植林の準備開始  
\*9月に『希望の森モリ大作戦～東北植林編～』と名付け、スポンサーの募集や育苗を開始しました。
- 2013年 宮城県石巻市で活動している『NPO法人いしのまき環境ネット』様にご協力いただき、約21,000本を育苗
- 2014年 さらに15,000粒の種を拾って、約36,000本の育苗を継続中。



## 植林プロジェクト概要

どうしたら当たり前前に雨が降る地球を未来の子供達に残せるのだろうか？  
その答えの一つが植林でした。木を植えると、雲が出来て雨が降ります。  
そこで、2005年に第1回中国内モンゴル植林ツアーを開催しました。  
そして、2008年には「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL (以下ワンフェス)」と名付けて、新たに事務局を設置し、「一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦」を開始しました。  
2012年からは東日本大震災の津波で被害のあった福島県から青森県の沿岸部に森の防潮堤を創りたいという想いで、東北で広葉樹の苗木を育て始めました。  
2014年は、一円募金活動・東北植林の苗木のオーナーさんを募集した他、7月に北海道で、4月と9月には中国内モンゴルで植林ツアーを行いました。



### 一円募金 ～一円玉で世界を緑だらけにしちゃおう大作戦～

ワンフェスでは、苗木代として日本で一番小さなお金の一円玉を集めています。一円募金を通して、「一人ひとりの力は微力でも決して無力ではない」、「みんなで力を合わせれば、大きな力に変わる」という事を伝えています。そして、一円玉を見るたびに「これでまた緑が増える！」という「一円玉＝緑」の意識をまずは日本から広めています。また、一人のヒーローが世界を救うのではなく、一人ひとりが世界を変えるヒーローになろう！という想いから、一円玉を集めてくれる人を「一円ヒーロー」と呼び、一円マン、一円レディ、一円レンジャー、一円ステーションの4つのヒーローを募集しました。

【2014年の実績 登録人数：6人(チーム) 募金額：72,764円】  
【2014年までの累計 登録人数：873人(チーム) 募金額：9,371,531円】



### 中国内モンゴル植林

2014年4月と9月に、第11回、第12回中国内モンゴル植林ツアーを行いました。  
4月のツアーでは、中校生が参加し、若い世代にも大地に木を植える喜びや楽しさを伝える事が出来ました。  
9月のツアーでは、数年前までは一面沙漠だった植林地に草原が広がって、昆虫や爬虫類だけでなく野鳥も帰ってきて、鳥の鳴き声や虫の姿をたくさん見る事が出来ました。5、6羽の鷹が植林地のはるか上空を旋回している姿は、『木を植えてくれてありがとう』と伝えられたようでとても嬉しい光景でした。  
また、4月のツアーには中国人のご夫婦も参加頂き、2回のツアーとも現地の中学生30名と一緒に植林を行う事が出来て、国籍の壁を越えて日本人と中国人が1つになり、共に地球を大切にしていこう気持ちを共有する事が出来ました。



\* 第11回中国内モンゴル植林ツアー：ツアー参加者17名+交流会120名。ポプラとスナナツメを3000本植林  
\* 第12回中国内モンゴル植林ツアー：ツアー参加者20名+中国人14名で、ポプラとスナナツメを3000本植林



### 北海道植林

2014年7月22日から24日に、東日本大震災後に MAKE THE HEAVEN の活動拠点としてご縁を頂いた北海道洞爺湖で、3年ぶりとなる国内植林ツアーを開催しました。  
植樹祭当日は、日本人で一番樹を植えた男と称される『宮脇昭』先生を交えてのシンポジウムに始まり、仮装をして洞爺湖を見下ろす山を登り、地元の方々と共に3000本のドングリの植樹を行いました。  
また、植林以外にも、川辺を掘って自分の温泉を作ったり、参加者全員が初体験だった『ラフティング(川下り)』や自然農の体験をしたりして、楽しみながら北海道の大自然を全身で感じる事が出来ました。2泊3の中で北海道を丸ごと遊ぶことで、自然と繋がり、参加者さん同士も深く繋がるツアーとなりました。

\* ～千年つづくいのちの森づくりシンポジウム&植樹祭～  
大自然でいっぱい感じて遊んで森を育てよう in 北海道  
ツアー参加者9名、植樹祭参加者300名。ミズナラを3000本植林



### 東北植林プロジェクト (め組 JAPAN との共同企画) 「希望の森もり大作戦～東北植林編～」

2011年10月、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭氏が『瓦礫を使った森の防潮堤プロジェクト』を打ち出しました。有害な物を省いた瓦礫を使って土手を築き、深根性・直根性の常緑広葉樹を混植・密植で植林する計画です。森の防潮堤は防潮堤本来の役割を果たすだけでなく、津波が防潮堤を乗り越えた場合でも、津波の速度を和らげて人や家屋・家財の流出を防ぎ、被害を最小限に抑えられる事を知りました。  
ワンフェスはこのプロジェクトに賛同し、2012年1月から東北植林の準備を始め、9月には「希望の森もり大作戦～東北植林編～」と名付け、め組 JAPAN との共同プロジェクトとして活動しています。現在、森の防潮堤造りの実現に向けて樹木の種を拾い、苗木を育てています。

2014年は、21種類・約21,000本の苗木を育てながら、新たに15,000粒以上の種を拾いました。種拾いでは参加者を募り、一緒に山に入って種を取るための母樹を探したり、山を散策したりして自然に触れてもらう事が出来ました。また、育苗では全国のボランティアだけでなく、定期的に来てくれる地元の方々と一緒に植え替え作業をして、未来の子供達や自分の街に貢献する活動をみんなで楽しみながらする事で、仮設住宅で暮らす方々に新たな生きがいを見つけてもらうきっかけを作る事が出来ました。  
また、活動を遠くから支えてくれる『苗木のオーナー制』では、2014年に新たに23名のオーナーが増え、延べ200名以上の方から応援をいただいております。



### 間伐プロジェクト

今、日本の森はほったらかしにされて元気がなくなっている事、それが原因で大雨の時に土砂崩れなどの災害が起きている事、そして、森の元気を取り戻すにはスギやヒノキが元気に育つように間伐をして、森に光を届ける必要がある事を知りました。ワンフェスではこの事実を知り、みんなが出来る間伐方法として NPO 法人「森の蘇り」のきらめ樹間伐を取り入れました。一人でも多くの人に森の現状を伝える事で、森の手入れするリーダーが各地に増えたり、国産材や森で働く方々の支援に興味を持ってもらう「最初の一步」のきっかけを提供しています。



## 植林プロジェクト参加者の声

### 【内モンゴル植林ツアー】

20代 女性

見ず知らずの人達とがたった 7 日間で強い絆を得ることが出来ました。今回の旅は偶然ではなく、私達は会うことを約束されていたようです。悲しみをみんなで受けとめて、そして癒す。感動の旅でした。そして、これからの生きるパワーを更に頂きました。心から感謝致します。ありがとうございます。

40代 女性

先輩達が植えて下さった苗木が根付き草が生え虫達が戻り砂漠の真ん中で鳥のさえずりを聞いた時、とても感動しました。とても清々しく、晴れやかな気持ちになりました。ひたすら穴を掘っている時、自分の植えた苗木が枯れてしまったら大変なので責任重大だなぁと思いながら、ひたすら掘りました。「掘って！掘って！、また掘って!!」「大きくなあれ！大きくなあれ!!」と願いを込めて砂を踏みました。私達が植えた苗木も、砂漠にしっかりと根付き、緑色に輝きを放ってくれたら嬉しいです。とっても素敵なツアーでした♪  
ありがとうございます。

### 【北海道植林ツアー】

40代 女性

メチャクチャ楽しかったぁ〜♪夢の北海道で、植林という地球に良いこともできて、皆とも出会い、何から何まで素晴らしすぎて…最後のお別れには、号泣してしまいました。五感を感じた最高に気持ちの良い時間でした♪不思議なことに…最後の日、朝から何だか解らないけど、自分で運転しながら涙が止まらなかったです！

20代 女性

何でもかんでも頭で考えて物事を進めがちな私にとって、頭を使わない、五感しか使わない3日間はとても刺激的でした。旅行する時はいつも自分が細かくプランを立ててその通りに行動するのですが、今回は全てお任せでラクでした(笑)。川に飛び込み、土の上を裸足で歩いて、虫や植物と向き合って、感覚がピュアになった気がします。とにかく頭が軽かったです。生きるってこういうことだ、みたいなのもちよっぴり感じました。今回引き寄せられた仲間の生い立ち、想いのシンクロをすごく感じて、改めて引き寄せパワーの面白さを知りました。それぞれのベストのタイミングで北海道に集まった、そう思えます。今回のことがキッカケとなってそれぞれに幸せの連鎖が起こるように、私も自分の幸せに向き合いたいです。このような機会をいただきましてすごく幸せです。ありがとうございました。



# 東日本大震災 / 広島土砂災害 復興支援プロジェクト

め組 JAPAN



### 活動概況

2011年3月11日の東日本大震災を受け、全国から過去に3度結成された緊急災害復興支援チーム「め組」の再結成を望む声を頂き、東日本大震災復興支援チーム「め組 JAPAN」を発足しました。当プロジェクトは、震災当初から宮城県石巻市に入り、状況に応じて刻々と変わっていく現地の方々のニーズに合わせて支援を続けています。

め組 JAPAN の活動で大切にしている事は「つながり」です。2011年・2012年と年々、復興支援団体の数も、ボランティア人口も減少しました。その分、地域とのつながり、行政とのつながり、他団体とのつながり、自然とのつながりを大事にしながら復興支援活動を行っています。2013年からは寄り添い活動とワンフェスとのコラボ企画『希望の森もり大作戦～東北植林編～』に絞って活動を継続しています。また、2014年は、8月20日に広島で発生した土砂災害を受け、8月22日にめ組 JAPAN 広島を立ち上げて、広島県のボランティアチーム「広島たすけ隊」と共に支援活動を行いました。

### 足跡

- 2011年
  - 3月14日 め組 JAPAN 発足
  - 3月16日 め組 JAPAN 先発隊が宮城県石巻市に到着し物資配給や炊き出し、泥出し、お手伝いクルー（ボランティア）の受け入れなどの支援活動を順次開始
  - 3月20日 石巻災害復興支援協議会（旧：石巻支援連絡会）に加入
  - 5月 希望の種まきイベント「SEED' s OF HOPE」を開催
  - 6月 子供達への支援や仮設住宅の訪問など、寄り添い活動開始
  - 7月 被災地の家族の疎開プロジェクト「洞爺バケーション」を開催
- 2012年
  - 3月11日 追悼式典「祈りの灯り希望の灯り」、尾崎の慰霊祭の運営サポート
  - 4月 南浜ひまわりプロジェクト開始
  - 10月 「おだっぺばりいで」開業届提出
  - 12月 全国、世界各地から届いた795枚のクリスマスカードを仮設住宅、在宅の方々へお届け
- 2013年
  - 2月 め組 JAPAN の仲間達が子供支援団体「こども∞(無限)感ばにー」を発足
  - 4月 活動の中心を寄り添い支援と、WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL との共同企画「希望の森もり大作戦～東北植林編～」に移行（詳細は17ページを参照）
  - 6～9月 西日本を中心にめ組 JAPAN が行ってきた復興支援の報告会ツアーを開催
- 2014年
  - 8月22日 め組 JAPAN 広島発足。広島県のボランティアチーム「広島たすけ隊」と連携して泥出し活動開始
  - 8月23日 ホームページでボランティアの募集と、支援金の受付を開始
  - 8月25日 活動拠点を設けて長期滞在ボランティアの受け入れ開始
  - 9月30日 広島たすけ隊に活動をすべて引き継ぎ、め組 JAPAN 広島としての活動を完了しました。



### 東北での寄り添い活動

め組 JAPAN は、これまでに出会った方々とのご縁を大切に、被災された方々に寄り添いながら支援を続けています。寄り添い支援を続けていく事で石巻にたくさんのご縁をいただき、おかげ様で大きな家族ができています。仮設支援では、住民さん達が知り合うための場作りを大事にし、集会所でお茶会やもの作り、お花見会やクリスマス会などのイベントを開催して楽しんでいただきました。2014 年は、仮設での生活も 4 年目を迎え、心のケアや健康管理にも気を遣って状況に合わせた支援を心がけ、住民さん達の要望に応じて体操や健康講座などを実施して喜んでいただきました。独りぼっちを作らない事を目標にして、保健福祉課や介護包括、社協、行政や地元の団体などと連携を取って、より細やかな支援や見守りを行うことができました。また、仮設支援以外でも、被災後も在宅で過ごす高齢者や、独り暮らしの方々のお宅を定期的に訪ねさせてもらい、一緒にお話や食事をしました。訪問出来ないときにはハガキを送ったり、電話をかけたたりなど、繋がりを大事にして笑顔を届けて、いつも想っているという事を伝えてきました。その他、登米の社協や健康推進委員さん達の研修会でなどでお話をさせて頂き、地元で支え合う大切さを共に考え、その重要性を伝えてきました。

[2014 年の仮設住宅でのイベント開催：32 回 健康講座：13 回 料理教室：8 回]  
[2014 年の在宅訪問件数：延べ 137 件]



### め組 JAPAN から自立した東北の仲間達の活動

め組 JAPAN で活動したお手伝いクルーは延べ 2 万人以上になります。め組 JAPAN が活動を続けられたのは、全国、世界各地から支援金や物資を送って下さった方々、現地で活動してくれたクルー達一人ひとりの一歩があったからです。「あの町の前を通るたびに悲しい気持ちになる」。そんな地元の方々を受け、津波で壊滅的な被害を被った石巻市南浜町の住宅跡地に、2012 年の夏にひまわりを植えて頂きました。2013 年 3 月からは長期でお手伝いクルーをしていたメンバーが独立し、出来る範囲で続けて行きたいと南浜ひまわりプロジェクトの活動を 2014 年秋まで継続してくれました。め組 JAPAN ものづくりチームから生まれた、石巻のお母ちゃん達の手仕事チーム「おだってばりいで」は 2012 年に開業して、お母ちゃん達の手で活動を続けています。また、め組 JAPAN で長期に渡り活動してくれた仲間達 3 名で、2013 年に子供支援の団体「こども∞(無限) 感ばにー」を立ち上げ、今も継続して石巻で子供の居場所・遊び場づくりの活動を続けています。

おだってばりいで：<http://odatthey.jimdo.com/>  
こども∞(無限) 感ばにー：<http://codopany.org>



### め組 JAPAN 広島



2014 年 8 月 20 日に発生した豪雨による広島大規模土砂災害を受け、広島県の仲間たちが作ったボランティアチーム「広島たすけ隊」と連携して、お手伝いクルー（ボランティア）と支援金の募集、活動拠点の設置、土砂災害現場の復旧作業の支援などを行うために、9 月末までの約 1 ヶ月間限定で「め組 JAPAN 広島」を発足しました。

広島市安佐南区八木周辺を中心に活動を行い、1 ヶ月間でのクルー参加人数は延べ 2,500 名を超えました。土砂災害発生当初は、避難所となった学校周辺の道路や排水溝の土砂出しを行い、お手伝いクルーが集まるようになってからは、土砂が敷地内に流れ込んだお宅に声を掛け、地元の社会福祉協議会（社協）と協力しながら、家屋の内外の土砂出し・清掃作業を中心に活動しました。ただ庭や屋内の土砂出しをするのではなく、住民の皆さんが今後も自宅で生活することができるように、住民の方とお話をしながら、家財道具の撤去、屋内の床や柱の掃除・磨き、床下の土砂出し・清掃、お墓の掃除・片付け等を、1 件 1 件思いを込めて丁寧に行い、約 40 件の住宅の泥出し・清掃作業をさせて頂きました。

また、2014 年 10 月以降も広島たすけ隊が支援活動を継続できるように、1 日の作業工程の指導や、社協との連携方法、ボランティアをする上での心得など、東日本大震災で学んだ知識・経験を広島たすけ隊に伝えさせて頂きました。

広島たすけ隊：<http://hiroshimatasuketai55.jimdo.com>



## 広島土砂災害支援先住民さんの感想

この度の土砂災害で20日未明に目が覚めるとベッドの上に座っていました。頭は天井に届きそうな高さです。何が起きたのか訳も分からず、足元には土砂が流れ込んでいました。「もう駄目かな」と思ったのですが、裸足で外に這い出し、おじいさんと一緒に土砂と激流の流れの中、避難所となった小学校の体育館に命からがらたどり着きました。家は土砂で埋もれ、以前の面影もなく途方に暮れもう死にたいと何度も思いました。何かを考えることも出来ず、茫然として死ぬことばかり考えていました。しかし、毎日毎日ボランティアの方達が何百人といつ終わるかも分からない土砂撤去を黙々としてくれて、柱が見え・床が現れ・庭の土を確認し・畑が出現し生きる希望のようなものが湧いてきました。ボランティアの方達のお陰で生きることを実感している感謝しています

## 広島お手伝いクルーの体験談

ここで起きた本当のことを目の前に、涙を堪えるので精一杯。そんな中、作業中は目の前のことを必死で頑張る。このことは本当に被災者の為になっているのだろうか。でも、被災者の「ありがとうね」の一言に「こちらこそありがとう」って言いたい。こんな目に合っているのに、ボランティアの事まで心配してくれて。被災地と被災者の為に来ているのに、逆に自分が被災者の方に励まされ心に優しさと希望をもらっている気がする。また、来たいと思います。仲間に逢いに！感謝しています。  
(大阪の大学生)



# フィリピン台風災害 復興支援プロジェクト

## フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト

- MY RIDE への支援
- MY RIDE ホーム建築大作戦
- ベディーキャブキャブ大作戦
- 人生なんでもあり!! トークライブツアー
- 台風災害一周忌慰霊祭
- フィリピンライトアップザハートツアー
- フィリピン超超超超超ツアー



### 活動概況

2013年11月8日、巨大台風「ヨランダ」がフィリピンのレイテ島及び近隣の島々を襲いました。この台風によりレイテ島海岸部は甚大な被害を受け、フィリピン国保健省の報告では推定死者数約6,000人、負傷者約26,000人、被害者世帯は約100万世帯(500万人)とされています。

MAKE THE HEAVENは、2014年1月2日にレイテ島のタクロバン市に入り支援活動を行いました。そこでは、台風の被害だけでなく、貧困問題もあるということを知りました。しかし、そこで生活している子ども達の瞳は本当にキラキラ輝いていて、一生懸命に生きる姿を見て、フィリピンの人達とずっと関わって行きたいと思い、フィリピンと日本を繋ぎたい皆さんの笑顔と希望を届ける「フィリピン超超超超超ハッピープロジェクト」を発足しました。

2014年は、1月2日に初めてフィリピン支援ツアーを組んで支援に入らせて頂き、計5回のツアーを行いました。また、6月にはMY RIDEのリーダー「エマ」を日本に招待して日本各地を回ったり、11月の台風被災一周忌には、パロ市で行われた慰霊祭で竹あかり装飾を行ったりして、日本とフィリピンにたくさんの希望を届けることができました。

### 足跡

- |               |  |
|---------------|--|
| 2014年         |  |
| 1月2日<br>~6日   | 第一回フィリピン超超超超超ハッピーツアー開催、<br>フィリピン支援を開始<br>*現地ボランティア団体の手伝い、物資の運搬・配布、子ども<br>達との交流などをしました。                 |
| 2月            | フィリピンのボランティアチーム「MY RIDE」の支援活動を開始<br>*お米の支援とミシンをプレゼントしました。  |
| 4月4日<br>~7日   | 第二回フィリピン超超超超超ハッピーツアー開催   |
| 5月20日<br>~25日 | 第三回フィリピン超超超超超ハッピーツアー開催   |
| 6月            | ベディーキャブキャブ大作戦開始<br>*2014年は20台のベディーキャブ支援を頂きました。<br><br>MY RIDE ホーム建築大作戦開始<br>*2014年は188万円の支援金をお預かりしました。 |
| 6月20日<br>~28日 | 人生なんでもあり!! トークライブツアーを実施<br>*MY RIDEのリーダーエマを日本に招待して、全国9都市で<br>トークライブを行いました。                             |
| 7月26日<br>~30日 | 第四回フィリピン超超超超超ハッピーツアー開催   |
| 11月5日<br>~10日 | フィリピンライトアップザハートツアーを実施<br>*計30名で慰霊祭の準備などを行いました。   |
| 11月8日         | パロ市で開催された台風災害一周忌の慰霊祭で竹あかり演出を<br>実施<br>*日本の竹あかり演出「ちかけん」やフィリピン在住の日本人<br>の方々と協力して行いました。                   |

## MY RIDE への支援

フィリピン支援が始まり、何をすることがフィリピンの人たちにとって一番の支援になるのかを考えていたときに、ボランティアチーム「MY RIDE」と出逢いました。

MY RIDE のメンバーは 11 歳から 24 歳の若者たちで、みんな孤児や台風の被災者なのですが、自転車に乗って物資を配ったり、食べ物が不足して栄養失調になっている子ども達に給食支援を行ったり、カウンセリング、ビデオ上映、交流会などを行って、子ども達に希望や勇気を届けています。そして、ただ支援するだけでなく、家や身寄りの無い子ども達に「一緒にボランティアをしよう」と誘って、みんなで一緒に生活しています。

その MY RIDE のリーダーが 21 歳のエマです。エマはスラム街で育ち、7歳の時から深夜労働をするような貧しい生活をしていましたが、ダズさんという師匠に出逢いボランティア活動を通して様々なことを学び、今はペイフォワード（恩送り）の精神でたくさんの子供達に希望を届けながら、MY RIDE のメンバーを引っ張っています。エマは「人を救えるのは人」と言っています。そして、エマに助けられて学んだ子ども達が、また人を助け育てています。

MY RIDE は、まさに MAKE THE HEAVEN の活動理念「助けば変わる」を実践していました。そこで、MY RIDE の支援をすることがフィリピンの人たちへの一番の支援になると思い、MY RIDE への支援を開始しました。



## ペディーキャブキャブ大作戦

フィリピンではサイドカー付きの自転車が町中を走っていて、それをタクシー代わりにみんな乗って移動します。その正式名称は「ペディーキャブ」と言います。タクロバンでは被災後、仕事を失った人が大勢います。そこで、ペディーキャブを仕事のない人にレンタルして、ペディーキャブ運送で得た収入の一部を MY RIDE に支払ってもらうことにしました。

購入したペディーキャブは、MY RIDE のメンバーにイラストレーターがいるので、その子に仕事としてペディーキャブのデザインを考えて塗装してもらいます。名前や会社名が入った素敵なデザインのペディーキャブがタクロバンの町中を走ります。6月に一台7万円でペディーキャブキャブ大作戦を募集したところ、すぐに20台の申し込みが埋まりました。

現在はフィリピンでペディーキャブのデザイン・塗装作業を行っています。



## MY RIDE ホーム建築大作戦

エマたちに今何が一番必要か聞いた時、MY RIDE がタクロバンですっと活動を続けられるように、拠点となる場所が欲しいと答えていました。

そして、6月に念願だった土地を購入できました。しかし、土地を購入後にそこには23世帯の家族が不法居住していることが分かりました。エマに確認すると、たくさんの不法居住者がいることも知っていて、それでこの土地を選んで購入したと言いました。どういふことなのか詳しく聞くと、エマはこの土地を見たときに、「この不法に住んでいる人達と力を合わせて、ここで素晴らしいコミュニティーを創ろう。子ども達は僕たちが教育して、親にはいろいろ助けてもらう。この土地を買って一緒に暮らせば、この人達は不法居住者ではなく、安心して住めるようになる」というビジョンを描いたと語りました。不法居住者が住んでいるこの土地がエマたちにとってはベストな場所で、今とてもワクワクしていると目をキラキラさせているエマに脱帽し、彼らから大きな愛を学ぶ為にもタクロバンにエマ達の本拠地の施設をプレゼントしたいと思いました。

この施設が出来たら、たくさんの方が育ち、孤児になった子ども達もここで安心して生活できます。台風が来た時には近所の人達の避難所にもなります。そして、日本人のツアーが来たらここに泊まる事が出来て、フィリピンの松下村塾をタクロバンにも造ることが出来ます。

2014年11月に台風災害一周忌の慰霊祭でフィリピンを訪れた際に、購入した土地で暮らしている方々と交流会することができました。MY RIDE の子ども達と住民の方が本当に良い関係を作っていることが見てすぐに分かりました。まるで親戚のように会話をしていたり、助け合っている様子がとても印象的でした。住民の方々が住んでいた家を自ら進んで壊し、移築して、整地に協力している姿は、他の不法居住地ではありえないことです。MY RIDE の子ども達も、2014年夏頃まではテントでの生活をしていましたが、11月には自分たちで木材等を買ってきて仮住宅を建て、2015年の春には、トイレやアクティビティスペースの建築も実施します。

MY RIDE が想い描く建物を建築するための目標金額は600万ペソ(約1500万円)です。2千円、1万円、5万円、100万円の4種類のコースで募集させて頂いています。2014年は、皆様のおかげで188万円の支援金をお預かりすることができました。目標まであと1,312万円です。2015年の着工を目指して今後も引き続き支援の募集をしています。



## 人生なんでもあり!! トークライブツアー

2014年6月20日から28日まで、MY RIDE のリーダー「エマ」を日本に招待して、てんつくマンとエマのトークライブツアーを開催しました。

全国9都市で9日間連続開催と、スケジュール的にはきついつツアーでしたが、エマと会場に出逢った日本のみなさんはとても刺激を受け、ペディーキャブキャブ大作戦やMY RIDE ホーム建築大作戦の支援もたくさん頂く事ができました。

エマも日本を回り日本人と交流することで刺激を受け、自分達を支援してくれる人と直接逢う事も出来て、フィリピンと日本を繋ぎ笑顔と希望を届けるツアーとなりました。

ツアー日程	※実績
6/20: 福岡県	ももちバレス
6/21: 岡山県	ベクトル大学駅前キャンパス
6/22: 静岡県	INZA シャル
6/23: 大阪府	KOKO PLAZA
6/24: 石川県	テルメ金沢
6/25: 愛知県	WINC AICHI
6/26: 東京都	チームフロー赤坂オフィス
6/27: 新潟県	新潟テルサ
6/28: 宮城県	仙台市民会館

## 台風災害一周忌慰霊祭

フィリピン超超超超超ハッピーツアーで何度もレイテ島を訪れると、未だに癒えない苦しみにさらされている一方で、しっかりと前を向き自分たちで立ち上がろうとするフィリピンの方々の強さやたくましさを見せられました。そこで、フィリピンに希望を届けるためにもっと出来る事が無いかと探していると、パロ市長とお逢いすることができ、超巨大台風が来た一年後の2014年11月8日にパロ市で一周忌の慰霊祭が開催されることを聞きました。

この慰霊祭は、パロ市の市民が音楽・劇・ダンスを通じて台風の辛く厳しかった経験を皆で語り共有し、明日へ一歩を共に進みだすことを目的に実施されます。この会場を竹あかりで装飾してライトアップするという提案を市長にさせて頂いたところ、たいへん喜んで頂き、会場に竹あかりを飾る事が決まりました。

しかし、そのためには沢山のお金が必要になります。そこで全国の皆さんに支援金のご協力を呼びかけたところ、全国で募金活動が始まり、現地には行けないけれど自分の出来ることで思いを伝えたいと本当に沢山の方から支援を頂き、約400万円をお預かりすることができました。

また、市長と繋いでくれたフィリピン在住の方々と「ライトオブスピリッツフェスティバル委員会」を立ち上げ、現地での開催準備を協力して頂き、竹あかりの演出は、熊本で20万人が来場する祭りなどで竹あかり演出を行っている「ちかけん」に担当して頂きました。そして、慰霊祭の何週間も前から竹あかり職人がパロ市に入り、地元の方々と一緒に準備してもらい、慰霊祭の前々日には日本からのツアー参加者も合流して、みんなで1,000本以上の竹あかりを創り上げました。

慰霊祭の会場は教会になっていて、慰霊祭当日は家族や友人を亡くされた多くの方がお祈りに来られていました。美しくライトアップされている竹あかりを見たフィリピンの方々はとても喜んでくださり、日本のツアー参加者に泣きながら「ありがとう」と伝えてくれる方もいました。そして、パロ市長から「パーフェクトギフト」という最高の言葉を頂くことができました。

慰霊祭での竹あかりを通して、東日本大震災の時には「これくらいしか出来ないけれど」といっばいフィリピンバナナを送って東北の方々に支えてくれたフィリピンの人たちに、感謝の気持ちと一緒に乗り越えて行こうという日本の愛と勇気を届ける事ができました。レイテ島は、今から約70年前に第二次世界大戦で多くの日本人、そして現地の人々が尊い血を流した地でもあります。今回の慰霊祭で、台風被災者の精神的・社会的復興支援を通してフィリピンと日本に新しい友好の絆を築くことができ、日本とフィリピンの祖先の方々も喜んでくれたことと信じています。



## フィリピンライトアップザハートツアー

慰霊祭に合わせて2014年11月5日から10日までの5泊6日、スタッフも含め約30名でフィリピンライトアップザハートツアーを行いました。フィリピン到着後、マニラでフィリピンの吉田松陰といわれる「タズさん」のお話を聞き、「人に愛を伝える方法」を学びました。その後、早朝にレイテ島へ移動して第二次世界大戦で命を落とされた慰霊碑へご挨拶に行きました。そこからパロ市へ入り慰霊祭の準備を行ったり、地元の方との交流、MY RIDEの子ども達と仮設住宅へ自転車支援物資を届けたりしました。夜中の移動があったり、慰霊祭の準備が夜遅くまで続いたりして、肉体的にはとてもハードなツアーでしたが、たくさんの方を学んで、たくさんの方が喜んで涙を流す姿を見ることができて、スタッフも参加者さんも大感動のツアーになりました。2014年11月に台風災害一周忌の慰霊祭でフィリピンを訪れた際に、購入した土地で暮らしている方々と交流会することができました。MY RIDEの子ども達と住民の方が本当に良い関係を作っていることが見てすぐに分かりました。まるで親戚のように会話をしていたり、助け合っている様がとても印象的でした。住民の方々が住んでいた家を自ら進んで壊し、移築して、整地に協力している姿は、他の不法居住地ではありえないことです。MY RIDEの子ども達も、2014年夏頃まではテントでの生活をしていましたが、11月には自分たちで木材等を買ってきて仮住宅を建てて住んでいました。



## フィリピン超超超超超ツアー

2014年1月2日に初めてフィリピンへのツアーを開催し、2014年は計4回フィリピン超超超超超ハッピーツアーを実施しました。ツアーでは、レイテ島に行って現地ボランティアのお手伝いや台風の被災者への支援活動をしたり、MY RIDEと一緒にボランティア活動をしたり、子ども達と交流したりして、フィリピンと日本を繋ぎフィリピンに笑顔と希望を届けることができました。

ツアー日程	※実績
第一回フィリピン超超超超超ハッピーツアー	1月2日～1月6日 参加者13名
第二回フィリピン超超超超超ハッピーツアー	4月7日～4月12日 参加者6名
第三回フィリピン超超超超超ハッピーツアー	5月20日～5月25日 参加者4名
第四回フィリピン超超超超超ハッピーツアー	7月26日～7月30日 参加者7名



## フィリピンライトアップザハートツアー参加者感想

## この旅は大いに自分を変えるものになりました

実は、僕がツアーに参加したきっかけはボランティア精神によるものからではありませんでした。あの時の自分は、人生にストレスがあった訳ではないのですが、情熱がなく、マイナスの感情が多く、人生はつまらないと思っていました。今まで自分の為だけに使ってきた人生…誰かの為に使ってみたら変わるのかな？と、自分を変えたいという思いからでした。

フィリピン到着、まず驚いたのが参加者さん達の自己紹介（笑）。なんだかみんな信念があるように感じて、それぞれが自分を熱く語っていました。もちろん自分にはそんな自己紹介はできませんでした。そして次に衝撃を受けたのはなんとと言ってもタズさんとの出会いでした！まさに信念の塊といった感じで、その言葉は愛情に満ち溢れていました。孤独な子供達に、自分の人生のすべてを捧げている…こんな人が世界にはいるのか！と、とてつもない衝撃でした！そこからはハードな移動の連続！

やがて竹あかりの準備に移りました、体力の限界も相まって、無駄なことを考える余裕もない中、現地のストリートチルドレン達もいつの間にかやら作業に混じって夢中で体を動かしました！言葉は通じないのに、そんなのはもう関係なくなっていました。

そして竹灯籠に火を灯すと、多くの人が感動して喜んでくれて、最高のギフトだと言ってくれた人もいました！言葉が通じなくて、コミュニケーションもろくにとれないけれど、みんなが感動してくれている事は分かってすごく嬉しかった！

このあたりから、いつの間にか自分の感情をすなおに表す事ができるようになってきました！皆の感動に心から喜び、そしてストリートチルドレン達との別れでは自然と涙が溢れました。きっとフィリピンの人達やツアーの仲間たちのおおらかさと純粋さ人間らしさに触れて変わったんだと思います。

そしてエマや MY RIDE の子供達との出会い。エマの「世界は変えられないけれど、一人一人が変わることで世界は変わる」と言う言葉は、この先自分の人生に大きく影響してきそうです。みんなで被災者住宅に炊き出しを持って行ったとき、MY RIDE のみんなとの食事のときツアー仲間の後押しもあり、踊ったり、追いかけてっこをしたり、心の壁はいつの間にかなくなり感情だけで楽しむことができました。

この旅は大いに自分を変えるものになりました、「信念」「愛情」「今自分に出来る事」そしてやはり「感情は人生を楽しくしてくれる」。素直に泣いて笑って、それを受け止めてくれる仲間がいて…こんな当たり前の人間らしさを感じられる素晴らしい旅でした！大好きなフィリピンでまた皆さんに会えるのを楽しみにしています！

## 素敵な出会いとたくさんの思い、人と人とのつながりの大切さをまた感じられました

私は今回ツアーの通訳として参加させていただきました。知人に、台風一周年タケアカリでパロの市と人々に灯りをともそうというアートでコミュニティを動かすチャリティー活動があるから通訳として参加しないか？とお誘いいただきました。私の興味のあるフィールドだったのですぐに是非！と答えたのがきっかけでした。

フィリピンに着いて早々、タズさんのプレゼンの元、エマ、エフレンとケズくんのお話や、学校のツアーという初日からとても充実した日を迎えました。愛を与えるにはそばにいてあげることだったり、世界を変えるにはだれか1人助けてあげること、そして私達1人1人が必ずそのヒーローの心を持っていることなどタズさんのプレゼンから思うことは沢山ありました。

それから長い移動の中、レイテ島に着き歴史を超えて今日本から来た方々がフィリピンの人々の傷を癒すためにやってきてくれたと考えると全て起きたことに無駄なんてなかったんだ、この島で合った出来事があるからこそ今があるんだと思えました。

タケアカリは本当に綺麗でたくさんの方が感動されて、設置から片付けまでお手伝いする一部になれたのは本当に光栄でした。この竹も竹炭に変えて地域の発展も助けているし、なによりみんなで活動するというにも感動しました。

そのおかげで子どもたちとも出会えて、みんなには愛やそばにいてくれる存在や楽しみが必要なんだと思い本当に離れてしまうのは歯がゆかったですが、またなにか自分なりにできたらいいなと思いました。

今回のツアーでたくさんの素敵な出会いとたくさんの思い、人と人とのつながりの大切さをまた感じられたと思います。そしてツアーの通訳として同行できたこと、本当に本当に感謝しております。

大きなことはできなくても自分ができることは必ずあるはず！  
そう強く思えたのもこのツアーのおかげです。



## その他活動報告

### 映像部活動報告

### ツアー・イベント活動報告

## 映像部活動報告

映像部では、「映像」は世の中にある希望をたくさんの人に伝える最高のツールという想いの元に制作しています。伝えたい事をただ真面目に伝えるのではなく、一人でも多くの人を受け取りやすいようにエンターテインメントとして伝えていく事で、世の中に希望や元気、笑顔を増やす活動を行っています。2009年に完成した映画「107+1 ～天国はつくるもの～ Part2」は、これまでに7万人以上を動員し、世の中に希望や元気、笑顔を増やしました。しかし、毎年日本中で病気の方が増え続けていて、多額の医療費が掛かっている事を知り、病気で苦しむ人を少しでも減らす事が出来たらと、2010年7月、映画「107+1 ～天国はつくるもの～ Part2.5 (仮)」を製作するために映像部を再発足しました。

2014年は、映画「107+1 ～天国はつくるもの～」のPart1とPart2をDVD化して、2015年1月で自主上映の開催を終了しました。Part1が出来てから11年、その後Part2が出来て5年、2作品の映画の上映会を主催して下さった方は延べ約2,500人になります。そして、観客動員数は、Part1が約15万人、Part2が約7万人で、合わせて約22万人の方に映画を見て頂きました。本当に沢山のの方に応援して頂き、沢山のの方に愛されている映画になりました。NPO法人 MAKE THE HEAVENを含め、この映画から始まった物語がたくさんあります。今後もDVD販売を通してより多くの方々にご覧頂いて、一人でも多くの人たちが動き出すきっかけになればと思っています。

#### 映像部のこれまでの映画作品

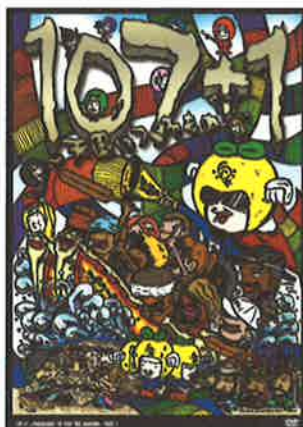
映画「107+1 ～天国はつくるもの～ Part1」(2003年製作)

・2014年までの動員数：約15万人

映画「107+1 ～天国はつくるもの～ Part2」(2009年製作)

・2014年までの動員数：約7万人

Part 1



Part 2



### 「107+1 ～天国はつくるもの～」 Part1/Part2 DVD

販売価格 1枚：4,800円(税込)  
2枚セット：「Part1・Part2」9,600円  
※どちらも税込金額

商品内容や購入方法など、詳しくはHPをご確認ください。

HP：楽喜天 <http://lucky-ten.com>



## ツアー・イベント活動報告

たくさんの人と人々が繋がり、同じ志を持つ仲間が出来る事で、その後の人生が大きく変わります。MAKE THE HEAVENでは、「一人の100歩よりも百人の1歩」で世界を変えていくために、毎年多くのツアーやイベントを開催し、最高の仲間と出逢える場を提供しています。

2013年も、参加した人がただ感動するだけではなく、新たな一歩を踏み出せるツアーやイベントを開催し、多くの出逢いやきっかけを提供する事が出来ました。

### 2014年のツアー・イベント活動実績

1/2～6	「第1回フィリピン超超超超超ハッピーツアー」
1/11	「MAKE THE HEAVEN 新年会2014 天まで届くアホになりたい人全員集合！ ～この世にはチャンスしかない！～」
4/7～12	「第2回フィリピン超超超超超ハッピーツアー」
4/8～14	「第11回中国内モンゴル植林ツアー」
5/20～25	「第3回フィリピン超超超超超ハッピーツアー」
6/20～28	「人生なんでもあり!! トークライブツアー」
7/22～24	「～千年つづくいのちの森づくりシンポジウム&植樹祭～ 大自然でいっぱい感じて遊んで森を育てよう in 北海道」
7/26～30	「第4回フィリピン超超超超超ハッピーツアー」
7/26～8/2	「第5回カンボジアくっくまツアー」
8/16～9/2	「カンボジアの天使が舞い降りる JAPAN TOUR FINAL」
9/11～16	「第12回中国内モンゴル植林ツアー」
11/5～10	「フィリピンライトアップザハートツアー」
12/26～31	「第23回カンボジアスタディツアー」



### 人生なんでもあり!! トークライブツアー感想

常識の話、すごくよかったです。おそらく私は家族の中で一番常識とかけ離れている存在な気がしますが、自分の心のまま行きたいと思います。親の世代に聞いてほしい、でも何よりもよかったのは私は幸せなんだなーとまた思いました。

いつでも幸せだよなと感じていたいです。

自分の可能性を自分で摘み取っていると気づきました。勇気ができました、私も動こうと思います。



# MAKE THE HEAVEN

## 会員・募金・スポンサー・サポートのお願い

MAKE THE HEAVEN では、支援の内容に応じて、いろいろなサポート方法をお願いしております。あなたが応援したい活動のサポート、よろしくお願ひします。

### MAKE THE HEAVEN 全体のサポート

#### ・MAKE THE HEAVEN 会員

MAKE THE HEAVEN の会員になる事が出来るスポンサー制度です。頂いたお金は MAKE THE HEAVEN の各プロジェクトの活動費に使わせて頂きます。会員になって頂く事で、活動報告書や定期発行の新聞、MAKE THE HEAVEN 主催のツアー・イベントの優待などをさせていただきます。

詳細：<https://39auto.biz/maketheheaven/regires.php?tno=180>

#### ・エレファントスポンサー

MAKE THE HEAVEN が出版している、ちびさん本の販売店になる事が出来るスポンサー制度です。頂いたお金は MAKE THE HEAVEN の各プロジェクトの活動費に使わせて頂きます。スポンサーのコースに応じて、ちびさん本のプレゼントや、卸値の割引があります。

詳細：<http://www.maketheheaven.com/erelant/>

### め組 JAPAN へのサポート

#### ・天国はつくるもの基金

MAKE THE HEAVEN 全体をサポートして頂く募金制度です。頂いたお金は MAKE THE HEAVEN の活動費及び、め組 JAPAN の復興支援活動費に使わせて頂きます。

詳細は、[http://maketheheaven.com/megumijapan/?page\\_id=16](http://maketheheaven.com/megumijapan/?page_id=16)

### WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL へのサポート

#### ・ワンフェス賛同スポンサー

MAKE THE HEAVEN の植林・間伐活動プロジェクト「WONDERFUL WORLD 植林 FESTIVAL (以下ワンフェス)」のスポンサー制度です。頂いたお金はワンフェスの活動運営費に使わせて頂きます。スポンサーのコースに応じて、ホームページでの広告掲載、記念グッズプレゼントの他、ワンフェスが行った植林・間伐地に設置する記念看板にお名前を入れさせていただきます。

詳細：<http://www.wonderful-world-syokurin.org/entry/?section=2>

#### ・一円募金

ワンフェスが行っている一円玉の募金制度です。集まった募金は、ワンフェスが行っている植林活動の苗木代に使わせて頂いています。

詳細：<http://www.wonderful-world-syokurin.org/entry/?section=1>

#### ・森モリオーナー

ワンフェスとめ組 JAPAN の共同企画「希望の森モリ大作戦～東北植林編～」のオーナー制度です。遠く被災地から離れている人も想いを一つにして、あなたに変わりワンフェスで苗木を育てます。「被災地復興の力になりたい」「東北に行けないけど、想いはずっと一緒！を伝えたい」「東北の沿岸にでっかい希望の森を作るお手伝いをしたい」という方に最適です。

詳細：<http://39auto.biz/maketheheaven/regires.php?tno=168>



### MAKE THE HEAVEN CAMBODIA へのサポート

#### ・パバママ大作戦！カンボジア奨学金

学校に通えないカンボジアの子供達へ奨学金を贈る、教育里親の支援制度です。1口(1万円)で1人の子供が、1年間学校に通う事が出来ます。サポートして下さった方に、ご支援頂く我が子(奨学生)の写真付き報告書(奨学金証書)や、カンボジアの我が子本人から手紙が届きます。

詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/ppmm/>

#### ・くっくま孤児院

メイクザヘブンカンボジアが運営する笑顔あふれるくっくま孤児院の子供達を応援する支援制度です。くっくまファミリーとして、お父さんコース・お母さんコース等があり、サポートして下さった方には、子供達からお手紙や絵が届きます。

詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/ccmha/>

#### ・カンボジア支援

カンボジアのスラムや孤児院で生活する子供達の生活全般を支援する制度です。また、バサックスラムの子供達に1ヶ月分のお米とおかずを支援する、「米米マン」「おかずマン」という制度もあり、支援して頂いた方々のお名前をHPに掲載させていただきます。

詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/bassac/> (バサックスラム支援)  
<http://maketheheaven.com/cambodia/cambodia/> (カンボジア支援)

#### ・学校建設事業

学校のない村に学校を建てたり、雨風が入る校舎の建て替え等、主に公立の小学校を建設する支援です。企業や団体のお名前を校舎に書いて、子供達全員と開校式を行います。建設後も、子供達と温かい交流が出来ます。

詳細：<http://maketheheaven.com/cambodia/school/>

### 映像部へのサポート

#### ・映画製作サポート基金

NPO 法人 MAKE THE HEAVEN が現在製作している映画、「107+1 ～天国はつくるもの～ Part2.5 (仮)」のスポンサー制度です。頂いたお金は全額、映画制作費に使わせて頂きます。一口(5,000円)ごとに1枚ずつ、現在映画制作のために取材している方々のインタビュー映像(非売品)をプレゼントさせていただきます。

詳細：<http://maketheheaven.com/eizou/>

### フィリピンへのサポート

#### ・MY RIDE ホーム建築大作戦

フィリピンのレイテ島タクロバン市で活動するボランティアチーム「MY RIDE」の活動拠点となる建物を建築するための支援金を集める制度です。2千円、1万円、5万円、100万円の4つのコースがあり、コースに応じて、ホームページへの名前の掲載や感謝状、MY RIDE の子ども達からの手紙などをお送りさせていただきます。

詳細：<http://maketheheaven.com/philippines/homepro.html>

2014年 会計報告

活動計算書

2014年 1月 1日 ~ 2014年 12月 31日 まで

(単位:円)

科目	金額		
	特定非営利活動 に係る事業	その他の事業	合計
I 経常収益			
1. 受取会費 (注1)	3,707,762		3,707,762
2. 補助金収入	1,121,000		1,121,000
3. 寄付金収入(注2)	25,690,942		25,690,942
4. 負担金収入	10,889,413		10,889,413
5. 収益事業収入		28,804,116	28,804,116
経常収益計	41,409,117	28,804,116	70,213,233
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
給料手当	6,374,400		6,374,400
人件費計	6,374,400		6,374,400
(2) その他経費			
外注費	4,980,601		4,980,601
福利厚生費	0		0
食材費	205,100		205,100
運賃	4,017,809		4,017,809
資材費	1,852,882		1,852,882
旅費交通費	7,041,697		7,041,697
通信費	1,194,987		1,194,987
消耗品費	1,208,882		1,208,882
印刷製本費	0		0
印刷費	2,827,811		2,827,811
燃料費	811,501		811,501
光熱水料費	284,880		284,880
賃借料	4,587,255		4,587,255
保険料	481,452		481,452
諸謝金	3,239,513		3,239,513
租税公課	285,000		285,000
負担金	0		0
寄付金支出	0		0
地代家賃	480,000		480,000
減価償却費	0		0
支払利息	0		0
雑費	855,865		855,865
その他経費計	34,355,235	0	34,355,235
事業費計	40,729,635	0	40,729,635
2. 管理費			
(1) 人件費		2,204,110	2,204,110
人件費計		2,204,110	2,204,110
(2) その他経費			
外注費		0	0
福利厚生費		27,321	27,321
食材費		0	0
運賃		72,104	72,104
資材費		0	0
旅費交通費		109,974	109,974
通信費		286,717	286,717
消耗品費		238,659	238,659
印刷製本費		740,472	740,472
印刷費		0	0
燃料費		0	0
光熱水料費		0	0
賃借料		0	0
保険料		94,140	94,140
諸謝金		297,302	297,302
租税公課		416,100	416,100
負担金	19,352,367	0	19,352,367
寄付金支出	7,710,968	0	7,710,968
地代家賃		0	0
減価償却費		256,023	256,023
支払利息		133,330	133,330
雑費		210,630	210,630
その他経費計	27,063,335	2,882,772	29,946,107
管理費計	27,063,335	5,086,882	32,150,217
経常費用計			72,879,852
III 売上原価			
期首棚卸	2,062,516		2,062,516
仕入高	1,636,600		1,636,600
期末棚卸	1,272,867		1,272,867
売上原価	2,426,249		2,426,249
売上原価			2,426,249
IV 営業外収益			
受取利息		1,588	1,588
V 営業外費用			
法人税、住民税及び事業税	71,910		71,910
当期正味財産増減額			△ 5,163,190
前期繰越正味財産額			23,648,806
次期繰越正味財産額			18,485,616

貸借対照表

2014年 12月 31日現在

(単位:円)

科目	金額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	18,660,049		18,660,049
売掛金	52,870		52,870
未収金	105,641		105,641
商品	1,272,867		1,272,867
流動資産合計		20,091,427	20,091,427
2. 固定資産			
土地	3,000,000		3,000,000
車両運搬具	303,688		303,688
什器備品	225,191		225,191
固定資産合計		3,528,879	3,528,879
3. その他の資産			
敷金	320,000		320,000
その他の資産合計		320,000	320,000
資産合計			23,940,306
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	638,732		638,732
預かり金	459,358		459,358
短期借入金	4,000,000		4,000,000
未払消費税等	285,000		285,000
未払法人税等	71,600		71,600
流動負債合計		5,454,690	5,454,690
2. 固定負債			
固定負債合計		0	0
負債合計			5,454,690
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		23,648,806	23,648,806
当期正味財産増減額		△ 5,163,190	△ 5,163,190
正味財産合計			18,485,616
負債及び正味財産合計			23,940,306

注1 会費収入内訳

正会員	430,000
賛助会員	670,000
マンスリーサポーター	2,607,762
<b>会費収入計</b>	<b>3,707,762</b>

注2 寄付金収入内訳

メイクザヘブン本部	1,270,690
フィリピン支援金	6,386,161
広島支援金	1,500,252
震災支援活動	2,079,631
植林・間伐活動	2,079,310
一円募金(苗木代)	106,030
パパママ大作戦	4,171,920
まいど大作戦	420,000
カンボジア支援	6,209,865
くっくま孤児院	1,467,083
<b>寄付金収入計</b>	<b>25,690,942</b>

監査報告書

特定非営利活動法人MAKE THE HEAVENの2014年度決算について、事業は適切に実施され、また、収支計算書及び貸借対照表は、経営状況及び財政状態を適正に表示しているものと認めます。

2015年 3月 30日

監事 二瓶 明 